

## 統計リテラシー

日時: 9月1日(月) 10:00~17:15  
場所: 東京大学(本郷) 社会科学研究所(赤門棟5階)  
料金: 一般 5,000円、学生 2,500円  
講師: 佐々木 弾(東京大学)

## Stat Literacy

1 September 1000 - 1715 hrs  
Room 549 Akamon Bldg, ISS U-Tokyo  
JPY 5,000 (2,500 for students)  
Dan Sasaki (U of Tokyo)

### 本講の目的

ネット・リテラシーという言葉があります。狭義には文字通りインターネットの使い方や読み方を指すこともありますが、より広義にネットで見た情報を鵜呑みにしない事、ネット上の情報の氾濫に右往左往したり惑わされたりしない事、を指すのが一般的です。

統計に関しても、ちょうど同じ意味でのリテラシーが要求されます。現代社会に氾濫する統計情報はまさに玉石混交で、それこそ石を投げれば眉唾物の統計に当たりそうな状態です。そんな現代を生きる我々にとって、いかがわしい統計を見分け、見破る術は「読み書き」「四則計算」に劣らず必携と言えます。

インターネットに限らず、現代社会に氾濫する情報の非常に多くは統計です。情報の大海原とも言うべき現代社会を航海する我々に要求されるリテラシーの主要部分は、この統計リテラシーということになります。いい加減な統計をただ「ネットで見たから」「活字で読んだから」「大手メディアで耳にしたから」というだけで漫然と盲信するようでは、直接的に金品を巻き上げられなくても、半ば詐欺に引っ掛かっているのと同じなのです。

リテラシーの問題は、統計ソフトを駆使したり記事を書いたりすることを生業とする人々の間でも、残念ながら無縁とは言えません。公開された統計を何の疑いも無く引用しそれに市販の統計ソフトでこれまた何の疑いも無く分析を加えて記事として発表する人、肅々と数値的な統計分析に始終しその分析結果への直観的解釈をしない・できない人、「一次資料」に偏執し巨費を浪してアンケート・インタビュー等を濫用しその科学性如何には一考もしない・できない人、これらは全て統計情報発信側のリテラシーの問題です。現代社会に横行する統計情報の質的劣化は、このように発信側・受信側双方の共演の産物とも言えるのです。

本講を契機として、参加者の皆さんが統計リテラシーを自家薬籠中のものとし、統計の大海原の環境浄化に一役買うと同時に、その荒波に翻弄されず大航海を始める一助となれば幸いです。

### 概要

統計と聞けば何やら数学的なものを連想する方々が多いのではないのでしょうか。現に統計学の教科書の多くは、入門書や一般(つまり大学外)向けの教本でもかなり数学的に書かれています。しかし実は、そのような数学的な書き方なり学び方なりを選択するかどうかは、謂わば表現や使用言語の選択に過ぎません。

統計リテラシーとは、統計以外のリテラシーと同様、その基本は状況判断にあります。より具体的には、所謂5W+1Hを頭に置きつつ統計を読み書きする、ということです。

Who: 誰がその統計を集め、分析し、発表し、解釈しているか。

What: 何を記述し分析した統計なのか。

Where: 統計データの出所はどこか。

When: どういう文脈で行われ発表された統計分析か。

Why: どういう目的のために行われたか。

How: 分析は統計(学)的に適切か。

本講では実際にネットや書籍等の形で発表された、疑わしい統計記事の数々を例題として、このような統計リテラシーの実習を参加者の皆さんと一緒に試みます。

このような方におすすめです

- ・ 統計(学)を始めたいが、大学講義も教本も数学的すぎて二の足を踏んでいる人。
- ・ 統計(学)を本格的に始めようとは思わないが、必要最低限のことだけ知っておきたい人。
- ・ 統計とは、不可抗力による誤測などを別とすれば一般に正しいものだ、とナイーブに信じている人。
- ・ 統計学よりも統計ソフトのほうが得意で、実はもう少し理論を知りたいのだが今更…という人。
- ・ 統計の目的はfact findingにあると考えている(いた)人。
- ・ 統計でハマされた手痛い経験をお持ちの人。(ご経験を是非お話し下さい！)
- ・ 統計学の単位は取ったが、思ったほど面白くなく、いま一つ知的好奇心が満たされていない人。
- ・ 上司や同僚、指導教員等から常々、お前は統計がデキナイ！と叱られていて、見返してやりたい人。
- ・ 他人の発表する記事等にケチを付けて喜ぶ事が趣味な人。(ちなみに講師はこのタイプです…)

#### 注意事項

例題として使用する統計記事はこちら(講師側)でご用意いたします。講義の数週間前から順次アップいたしますので、本サイトを定期的に御覧下さい。